

特定事業者排出量削減計画書 **（新規・変更）**

住所（法人にあっては、主たる事務所の所在地）	京都市右京区西京極東大丸町10番地/1						
氏名（法人にあっては、名称及び代表者の氏名）	宏和運輸倉庫株式会社 代表取締役社長 安藤 正純						
特定事業者の主たる業種	貨物運送業						
該当する事業者要件	<input type="checkbox"/> 京都市地球温暖化対策条例施行規則第4条第1号該当事業者（大規模エネルギー使用事業者（原油に換算して1,500キロリットル以上）） <input checked="" type="checkbox"/> 京都市地球温暖化対策条例施行規則第4条第2号及び第3号該当事業者（大規模運送事業者（トラック又はバス100台以上／タクシー150台以上／鉄道車両150両以上）） <input type="checkbox"/> 京都市地球温暖化対策条例施行規則第4条第4号該当事業者（その他の温室効果ガスの大規模排出事業者（二酸化炭素に換算して3,000トン以上））						
計画期間	平成 20 年 4 月 ～ 平成 23 年 3 月						
基本方針	貨物トラックの軽油燃料削減の為の具体策を実施し、削減CO2 6%達成を実現する						
推進体制	社長を本部長とする地球温暖化対策本部にて、実施計画策定・進捗管理システムを構築						
	環境マネジメントシステム名称						
	適用範囲						
取得年月日							
年度ごとの具体的な取組及び措置の計画	年度	設備、対象、工程等	計画内容				
	20～22年	事業所等	エアコン設備等、更なるエコ機種への変更を考慮しながら、温度設定・節電への意識向上を啓蒙し実現していく				
温室効果ガスの排出量等	排出区分		基準年度（実績） (19) 年度 (二酸化炭素換算)	目標年度（計画） (22) 年度 (二酸化炭素換算)	増減率 (計画)		
	A 事業所等排出区分		76.2 t	137.1 t	79.9 %		
	B 輸送車両排出区分		4,409.0 t	4,143.6 t	-6.0 %		
	C その他排出区分		t	t	%		
	排出合計		4,485.2 t	4,280.7 t	-4.6 %		
目標設定の考え方		17～19年度実績を基に、更なる効率的な運行・節電計画を実施し、目標 CO2削減 -6%達成を実現する。					
原単位当たりの温室効果ガス排出量等	用途区分	原単位の指標	基準年度（実績）		目標年度（計画）	増減率（計画）	
	本社営業所	二酸化炭素換算 (延床面積)	0.20992	363m <sup>2</sup>	0.05784	2370.24m <sup>2</sup>	-72.4 %
	輸送部門	二酸化炭素換算 (所有台数)	29.207	151台	27.455	151台	-6.0 %
		二酸化炭素換算 ( )					%
原単位の指標及び計画数値設定の考え方		営業所は延床面積・輸送部門は台数毎排出量にて					
地球温暖化対策貢献量	対策等の区分		目標年度（計画）				
			取組量等		(二酸化炭素換算)		
	森林の保全及び整備	(整備面積)	ha	(吸収量)	t		
	市内産の木材の利用	(利用量)	m <sup>3</sup>	(削減量)	t		
	自然エネルギーを利用した電力又は熱の供給	(売電量)	kwh	(削減量)	t		
		(熱供給量)	GJ	(削減量)	t		
	グリーン電力の購入	(購入量)	kwh	(削減量)	t		
削減量等合計				t			
地球温暖化対策に資する社会貢献活動							
特記事項	H20.3月本社ビル増築に伴いCO2排出量増加はあるが、目標数値の達成を実現する。						

注 1 該当する口には、レ印を記入してください。

2 「基準年度」とは計画期間の前年度を、「目標年度」とは計画期間の最終年度をいいます。

3 「事業所等排出区分」とは本市の区域内の事業所等の事業活動のためのエネルギーの使用に伴い発生する温室効果ガスを、「輸送車両排出区分」とは自動車運送事業者については使用の本拠の位置を本市の区域内とする車両の排出する温室効果ガスを、鉄道事業者については保有する貨物車両又は旅客車両の排出する温室効果ガスを、「その他排出区分」とは上記以外の本市の区域内における事業所等の事業活動に伴い発生する温室効果ガスをいいます。

4 「原単位当たりの温室効果ガス排出量等」の「用途区分」には、〇〇工場、事務所などの用途を記入してください。「原単位の指標」には、分子の「二酸化炭素換算」の下に分母となる指標（製造品出荷額、延床面積、走行距離等）を記入してください。

5 「地球温暖化対策に資する社会貢献活動」には、省エネ製品開発など他者の温室効果ガス排出削減への貢献や地域における環境教育の実践活動など、地球温暖化対策や環境負荷の低減につながる活動を記入してください。

6 「特記事項」には、1990年を基準とした排出量の対比や、温室効果ガス排出量の算定に当たって独自の係数を使用した場合など、説明を要する事項について記入してください。